

# 文化財庭園保存技術者協議会 会報

2004. 5 第4号

編集・発行：文化財庭園保存技術者協議会（代表：玉根徳四郎）

〒600-8361 京都市下京区大宮通花屋町上ル NPO みどりのまちづくり研究所内

TEL. 075-341-2600 FAX. 075-361-0961

評議会連絡所：〒606-8371 京都市左京区北白川瓜生山 2-116 京都造形芸術大学日本庭園研究センター

TEL. 075-791-9018 FAX. 075-791-9342

東京 連絡所：〒169-0051 東京都新宿区西早稲田 1-6-3 福田ビル 3F 文化財庭園保存技術研究センター

TEL. 03-3202-5233 FAX. 03-3202-5394

## 平成 16 年度総会・第 1 回研修会のご案内

平成 16 年度の総会・第 1 回研修会を下記の通り開催いたします。教養研修では、昨年より評議会員となっていた安原啓示氏より文化財庭園の保存管理技術の考えかたについての講義を行います。会員諸氏からのご相談も承りますので、お困りの問題をお寄せください。

実技技能研修では、これまでのホームグラウンドとしていた京都御苑拾翠亭が 15 年度で第一段階の空間構成を終えたため、新たに同じく京都御苑旧閑院宮邸庭園において実技技能研修を行います。今後の庭園空間をどのように構築していくのか、会員諸氏と討議しつつ実際に庭園管理を行っていきたいと考えています。

日時：平成 16 年 6 月 18 日（金）・19 日（土）・20 日（日）

場所：18 日：南禅寺大寧軒・19 日：京都御苑旧閑院宮邸庭園

日程

### ● 18 日 総会・教養研修・実地技能研修

13:15 受付

13:30 総会

14:30 教養研修「文化財庭園とその保存技術」

講師：安原啓示（評議会員）

15:45 実地技能研修 南禅寺光雲寺庭園見学

案内：尼崎博正評議会員

18:30 情報交換会 がんこ二条苑（参加費：5 千円）

### ● 19・20 日 実地技能研修

9:00 受付（参加費：3 千円）

9:30 実地技能研修

監修：当協議会評議会員

指導：参加正会員

15:45 講評（20 日）

16:00 閉会

### ● 集合場所

南禅寺大寧軒

住所：京都市左京区南禅寺福地町  
（金地院南隣）

公共交通機関：京都市営地下鉄東西線  
蹴上駅 10 番出口より徒歩 5 分



## 平成 15 年度事業報告

平成 15 年度 9 月以降、5 つの研修を行ってきました。その研修内容を参加された会員の感想を含めお知らせします。

### ●岐阜県神岡町実地技能研修

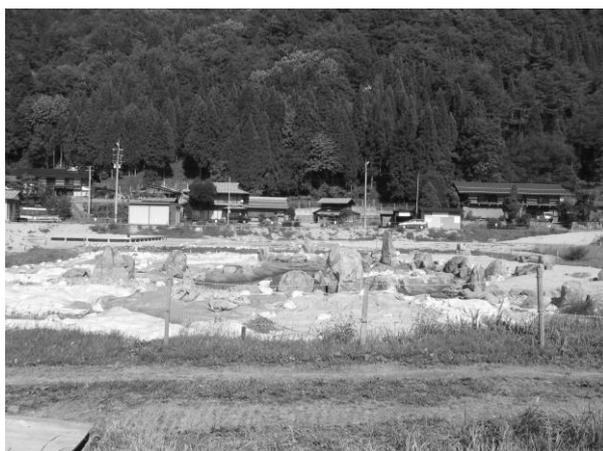
**内容:**平成 15 年 9 月 27 日に岐阜県神岡町の史跡江馬氏城館跡庭園において実地技能研修が開催された。修復事業に関係された、神岡町教育委員会の大平さん、整備委員会委員の丸山宏評議員、設計担当の真鍋監事、施工担当の徳村盛市各氏より、これまでの事業経過や内容についてご説明いただきました。

**会員の声**（徳村盛市正会員）：私は 2 ヶ年にわたり加藤允彦氏、丸山評議員によるご指導、真鍋監事設計管理のもと庭園整備工事に携りました。今回の研修会では神岡町教育委員会の大平氏から発掘調査による見解や庭園成立から現在に至る歴史の変遷の説明を受け、また施工前、後の平面図を見ながら現地を視察することで、多角的な視点から庭園を把握していただけたと思います。このような復元整備工事では必ずといっていいほど自分なりの幾つかの疑問が生じてきます。この庭園の復元整備工事においては、植栽の痕跡が見られないこと、私自身は池泉であると思っていたのに水を取り入れたと思われる痕跡がなく水深があったであろうと思われる池底の現況にもかかわらず水が溜まっていたという痕跡がないことから枯山水であったとする説について先生方や会員の方々の意見を聞いたことは大変貴重でありました。

最後に私の希望としまして、協議会員の方々が実際に手掛けておられる庭園を視察することは会員相互の技術向上に繋がると思いますので、今回のような研修の場を多くもつことを期待しております。



担当者に説明を受ける様子



庭園全景

### ●岩手県技能技術練磨

**内容:**平成 15 年 10 月 18～20 日に岩手県前沢町の岩手県指定文化財太田家住宅庭園と平泉町の特別名勝毛越寺庭園、特別史跡無量光院跡、史跡柳の御所において技能技術練磨を行いました。太田家住宅庭園においては、中村一評議員の監修、玉根徳四郎代表指導の下、会員が樹木の手入れを行い、その様子を地元の人たちが見学をされていました。20 日には、毛越寺の藤里明久執事長、平泉町世界遺産推進室の八重樫室長、岩手県教育委員会の方より、庭園の特徴や発掘状況などについてご説明いただきました。

**会員の声**（山田拓広研修会員）：平成 15 年夏、技能技術練磨研修の打合せに太田家庭園を訪れた。庭園は、建物前は開けているが周辺植栽は灌木も含めて生い茂り、庭園奥に入ると日差しも入らず薄暗い印象であった。ここまでなった庭園をどうやって戻すのか、悩むところであったが、研修初日の会員による検討では、思い切って、当主が腰を抜かす程でも切り戻すべきだと意見が一致し、作業に移ることとなった。玉根代表をはじめ正会員の皆様のご指導により作業は見る見る進み、二日目夕方には、庭園の要素がすべてしっかり見渡せる、見違えるほどすっきりした庭園となっていた。私のような未熟者は、切り戻しをする場合には案外躊躇してしまうものだが、茂りすぎた時ほど思い切って切り戻すことも必要なのだと痛感した今回の研修であった。後日談であるが、研修後に庭園をご覧になったご近所の方が、子どもの頃、昭和のはじめ頃に見た庭園に戻ったようだ、と懐かしがって仰っていたとのことである。



玉根代表指導の下技術錬磨を行う様子

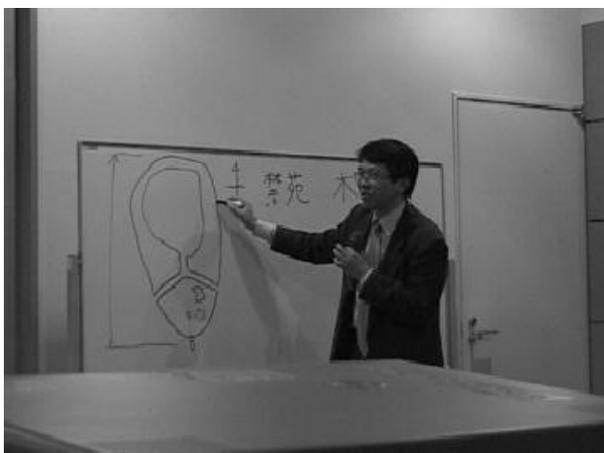


毛越寺において説明をうける様子

### ●京都第2回教養研修・第2回実技技能研修

**内容:**平成15年12月7・8日に京都において研修会が行われました。12月7日はペアーレ京都にて教養研修。奈良文化財研究所保存修復工学研究室小野健吉室長の講義「飛鳥・奈良時代の発掘庭園について」では、年代における特徴や内容、韓国・中国庭園との比較などが論じられました。京都府文化財保護課石田裕二専門員、片石高幸準会員、山田拓広研修会員の報告「太田氏庭園研修」では、研修にいたる過程や研修内容及び庭園維持管理についての課題などについて報告がありました。

**会員の声**（水本隆信正会員）：最初に拾翠亭を見た時、維持管理がおろそかになると短期間に荒廃し、いい庭がもたないなあと感じ、一方でこの状態から始まる研修は、やるだけのことはあるなと思った。管理事務所からの説明、評議会員の先生方の講義の中から歴史的経過、作庭意図をつかみながら先ず何からどのように手をつけるべきか、自分なりに考えをまとめることにしました。しかし何しろ京都という文化財庭園の本場での仕事は目に見えないプレッシャーがかかる。伝統の重さとか、京都ならではの技、京都の庭師ならではの見方をするのか等々、少し意識しすぎかなと思ったりもしたが、3回目ともなれば参加者の気心もわかるようになり、それぞれの考えを引き出しながらまとめることにしました。特に今回は巖島神社のある出島周辺の修景整備で、おもしろい発見をした。低木類の伐採をしてだんだん姿がはっきりとしてくるにつれて、池中に突き出した石護岸の石組が、どうも他と違っている。気になってしかたがない尼崎先生も拾翠亭から見て、何だろうと言っている。そのうち高倉橋から見ると、どうも亀形に組んでいるのが見えるようになった。最後の掃除を終えると作庭当時の姿が蘇って、すっきりとしたものになり、作庭者の意図に少し触れたような気持ちになったのは私だけではないと思う。このような景を見ると、地割、石組がいかに大切か、植物ばかりに目をとられてはいけないか、改めて思い知らされた研修でした。



教養研修：小野健吉氏講演の様子



巖島神社岬部修景整備の様子

### ●東京第3回教養研修・第2回実地技能研修

**内容:**平成16年2月6・7日に東京において研修会が行われました。2月6日は小石川後樂園涵徳亭における教養研修。文化庁記念物課 本中眞主任文化財調査官の講義では、文化財保護法の内容とその目指すものについて、龍居竹之介評議会員の講義では、文化財庭園保存技術の内容とそ

の役割について、東京都公園緑地部管理課 小口健蔵課長からは、都内6庭園についての保存整備の状況について、文化財指定庭園保護協議会 樋渡達也会長の講義では、指定庭園所有者の現状と課題について論じられました。その後、龍居竹之介評議員の案内で庭園の見学を行いました。翌日は小石川後楽園における実地技能研修を行いました。管理所の海老名誠氏より庭園景観の復元状況や課題について庭園を巡りながら、説明を受けました。

**会員の声**（廣瀬慶寛準会員）：一日目の教養研修は当協議会技術者と講師を含め32名の参加で、文化庁の本中氏、当協議会の龍居氏、東京都小口氏、文化財指定庭園保護協議会樋渡氏による講演があり、多方面から文化財庭園についてそれぞれの立場からの貴重なお話を聞くことができ有意義な教養研修でした。講演終了後龍居氏による現地案内が行われ、後瀬徳亭に於いて情報交換会が行われ参加者間で話が弾んだ。二日目は小石川後楽園管理事務所の海老名誠氏と、当庭の管理などについての実地技能研修会が行われた。前日の龍居氏の小石川後楽園の見方や海老名氏の管理状況のお話の中で、隣接するビルや東京ドームの目隠し等の件や管理費なえどのしさに聞き入ってしまいました。



教養研修：本中 眞氏講演の様子



小石川後楽園現地研修の様子

### ●拾翠亭特別技能研修

**内容**：後継者育成を目的に月に1度、京都御苑内拾翠亭において尼崎評議員監修のもと正会員及び準会員の方々に御指導いただき7名の研修会員が技術の向上を図りました。第1回は8月27日加藤末雄正会員による剪定技術の指導、第2回は9月24日日玉根代表、寺寄準会員による庭園全体の管理及びフジの剪定技術の指導、第3回は10月29日古野正会員指導による庭園全体の管理リストの作成、第4回は2月25日片石準会員指導による京都御苑内の剪定視察、第5回3月24日片石準会員による剪定技術の指導の以上計5回の研修が開催されました。

**会員の声**（徳村高秀研修会員）：私は、昨年度、今年度と特別技能研修に参加させて頂きました。京都御苑拾翠亭（旧九条家庭園）において月に一度、正会員の講師の方々からハサミ、長柄鎌の使い方、フジ、モッコク等庭園空間作りの為の剪定技術の御指導、庭園に関する考え方、知識や知恵を惜しまず真に教えてくださったことを大変感謝致します。研修内容に合わせて自分自身テーマを持ち参加会員の方々、京都御苑保存会の方々と意見交換を行い、相互に技術レベルの向上を図ることが出来たと思います。普段の仕事とはまた違った緊張感の中で、素直に庭園に向き合うことが出来る場がこの研修会でした。今後も積極的に研修会に参加させて頂きたいと思います。



保存会の皆さんと共に尼崎評議員より説明を受ける様子



寺寄準会員より藤棚管理についての指導を受ける様子

## お知らせ

昨年、本協議会設立に多大に尽力いただいた加藤允彦文化庁記念物課主任文化財調査官と、特別技能研修の講師を務めていただいた加藤彌寿雄正会員が相次いでお亡くなりになりました。お二方のご冥福をお祈りし、関係の深かった評議員より故人をしのぶ言葉を掲載させていただきます。

### ●加藤允彦さんを憶う 評議員 龍居竹之介

友人を失うことぐらい辛いことはありません。特に同級生だったり、自分より若い友人の場合は、言葉でもちょっと表現できないくらいのショックを受けます。

加藤允彦さんの早過ぎた長逝は、それから半年以上も経った今も、まだ半ば信じられないし、また信じたくもない思いに駆られます。でも現実には厳しく、今はご冥福を祈ると共に奥様、お嬢様をしっかり見守ってほしいと願うばかりです。本当に残念なことです。

この文化財庭園保存技術者協議会の誕生に比類ない情熱を注がれたことは、誰しも認めるところで、加藤さんが発足第一の功績者であったことは、永遠に記憶されることでしょう。私たちとしてはこの素晴らしい遺産を、いかに大きく育てて行くかが最大の責務です。間違いなくそれが日本の文化財庭園存続の原動力になるからです。そしてその成果を上げることこそ加藤さんに手向ける最大の香華に違いありません。

どうぞこれからの玉根代表を中心とした我が協議会の活動に、彼岸からぜひエールを送って下さい。思い切り好きな煙草を吸いながらね。



平成14年12月教養研修講演の様子

### ●加藤彌寿雄氏を偲ぶ 評議員 尼崎博正

卓越した技術には、その人の心がにじみ出しているものだ。長年の経験に裏打ちされた技量と見識はもちろんだが、そこに仕事に対する誠実さと庭へのひたむきな愛情が感じられてこそ、「技術」は技術を超えうるものだと私は信じている。

加藤さんはまさに卓越した造園技術者であった。

もう二十余年前のことになるが、私が疏水の経路を必死に調査していた時、仕事そっちのけで一緒に歩き廻ってくださった思い出がある。本協議会の特別技能研修で、ハサミの使い方もままならない若い人を根気よくご指導いただいたことは記憶に新しい。

求めてくる若者にはなんでも洗いざらい吐き出し、身を挺して教えてくださった、その真剣さ、厳しさ、そして限りない優しさを私達は決して忘れることはないだろうし、次世代へ受け継いでいくことを念じてやまない。加藤彌寿雄さん、本当にありがとうございました。



平成15年7月拾翠亭での指導の様子

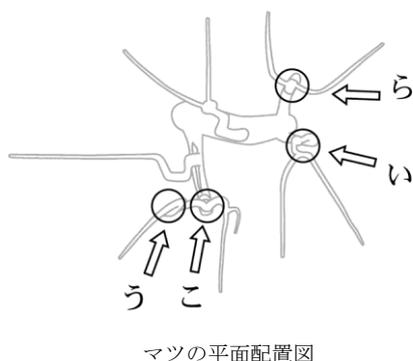
## 平成 15 年度その他の活動報告

### ●シンポジウム「文化財を支える伝統の名勝たち～選定保存技術～」の参加

平成 15 年 12 月 3 日、奈良県新公会堂において文化庁が主催するシンポジウムへ参加しました。23 の選定保存技術の団体が一同に会し、団体の活動紹介や実演、報告が行われました。当協議会においても活動状況のパネルを作成し、当日の活動説明のために事務局より 2 名の参加を行いました。

### ●記録保存事業「尾崎氏庭園におけるマツの管理技術」

平成 14・15 年の 2 ヶ年をかけ、鳥取県東伯町の「名勝尾崎氏庭園におけるマツの管理技術」に係る記録保存を龍居庭園研究所にお願いしました。ここにその一部を抜粋、掲載いたします。



## 平成 15 年度新規加入会員の紹介

平成15年度、井手久登評議員が退会され、新たに安原啓示氏が評議員に就任されました。そして新たに14名の技能会員が加わり、延57人の構成員となりました。また、技能技術練磨にて協力いただいた太幸邸白鳥梅の会と、相互に賛助会員となることになりました。ここに新規会員になられた方のショートプロフィールを掲載いたします。

### ●評議員

安原啓示：元文化庁記念物課主任文化財調査官・現京都造形芸術大学客員教授・日本庭園研究センター副所長

### ●技能会員

会員種別	氏名	所属	所在	備考	会員種別	氏名	所属	所在	備考
正会員	阿部 昭一	阿部造園	新潟県	清水園	準会員	水之浦 三月	水之浦緑樹園	鹿児島県	玉里庭園
研修会員	北村 正隆	景樹園	滋賀県	青岸寺庭園	研修会員	岡田 真喜子	辻本園芸・造園	京都府	—
研修会員	魚住 正人	重兼造園	福井県	西福寺庭園	研修会員	富山 泰成	重兼造園	福井県	西福寺庭園
研修会員	山田 勉	重兼造園	福井県	西福寺庭園	研修会員	庄司 豊	重兼造園	福井県	西福寺庭園
研修会員	石川 昇三	芳樹園	新潟県	—	研修会員	北村 祐介	景樹園	滋賀県	青岸寺庭園
研修会員	田中 秀幸	田中造園	愛知県	—	研修会員	中村 直樹	宝山園	滋賀県	—
研修会員	稲本 修	稲本造園	神奈川県	建長寺庭園	研修会員	山崎 正		千葉県	—

### ●賛助会員

太幸邸白鳥梅の会：岩手県胆沢郡前沢町 岩手県指定文化財太田家住宅の保存管理団体

編集後記：▼当協議会の活動も3年目、平成16年度に入りました。今年度の研修内容については総会にて発表させていただきます。昨年度は会則第1条2項にある7つの技術のうち一号の「地割り管理技術及び発掘庭園修復技術」をテーマに研修を進めてまいりました。今年度はそれに引き続き二号の「石組み管理技術」をテーマとして昨年よりも更に充実した内容にしてまいりたいと思いますのでご期待ください。次号は11月の発行予定です。紙上でのご議論も充実させたいと思いますので、ご質問やご意見をお寄せいただければ幸いです。また、会員諸氏のプロフィール、かかわっておられる文化財庭園保存技術のご紹介も次号から掲載していきます。投稿も歓迎いたします。